

放射線治療科

国立がん研究センター東病院でも放射線科専門医が取れる！！

国立がん研究センター東病院は総合修練機関です。下記基幹病院と連携を取っており、下記プログラムに参加することにより、当院で研修をしながら専門医の取得ができます。

連携プログラム：東京医科歯科大学、千葉大学、群馬大学、筑波大学、横浜市立大学、聖マリアンナ医科大学、神戸大学

●豊富な臨床経験

年間新規治療件数は 1800 件以上と国内屈指の件数であり、様々な疾患の緩和治療から根治的治療、強度変調放射線治療や定位放射線治療、陽子線治療まで幅広い治療経験を得ることが可能です。平成 31 年度からは低線量率および高線量率組織内照射も開始します。他科へのローテーションや中央病院での短期研修等も可能ですので、放射線腫瘍医として必要な幅広い技能と知識を習得する環境が整っています。

各領域の他科とのカンファレンスも充実しており、各臓器のがんに関する数多くの臨床試験にも参加していますので、臨床試験の考え方や臨床試験を通じた標準治療の知識も習得することが可能です。

さらに、当科では様々な国内外からの研修を受け入れており、近年ではヨーロッパ、インド、台湾等からの留学生も研修に訪れ、国際交流も盛んとなっており、英語も自然と身につく環境です。

●充実した教育体制

日本の放射線治療をリードする様々な分野の専門家から、直接教えてもらうことが出来ます。日常臨床を通じて教育講演を 1 対 1 で受けられるチャンスです。

放射線治療科のレジデントは仕事の負担は決して多くなく、充実した研修生活を送っております。研修や研究に専念することが出来ます。また、スタッフ全員でサポートいたしますので、安心して休暇もとることが出来ます。

●話題の治療、陽子線治療

当院では、通常の放射線治療と陽子線治療をどちらも有する数少ない施設です。陽子線治療は年間 200 件以上の治療を行っており、幅広い疾患の治療を経験することが出来ます。2016 年 4 月より小児がん、2018 年 4 月より前立腺がん、頭頸部悪性腫瘍、骨軟部腫瘍も保険適応となり、ますます陽子線の需要が高まっております。また、2015 年 10 月より、前立腺癌がんにおいて、複雑な形状の腫瘍に対応できる「陽子線ラインスキヤニング照射

法」による治療を開始しており、2018年11月からは強度変調陽子線治療も開始予定で、世界最先端の治療技術を経験できます。

研究テーマも豊富、研修しながら学位が取れる臨床に従事したまま研究活動を行い、連携大学院制度で学位を取得することも可能です。放射線治療科では、臨床研究や基礎研究、トランスレーショナルリサーチ研究を盛んに行っており、様々な分野と協力して研究を行うことができます。研修手技の習得も可能です。

●研修希望者のニーズにマッチする、様々な研修コース

レジデント 2年コースおよび3年コース

対象者：採用時に医師免許取得後3年目以降が対象（上限はなし）応募条件の詳細は募集要項参照。

研修内容

関連各科のローテーションは自由選択。研修期間の50%以上の期間は放射線治療科にて研修することが望ましいが、研修目標などによって応相談。2年の研修期間の1年以上の期間は放射線治療科にて研修することが望ましいが、研修目標などによって応相談。

研修の特色

放射線治療科は、頭頸部癌、食道癌、肺癌、乳癌、前立腺癌などに対する根治的な放射線治療および骨転移を始めとする緩和的治療も数多く実施しており、加えて強度変調放射線治療や画像誘導放射線治療、定位放射線治療、呼吸同期照射などの高精度放射線治療技術も導入しています。局所進行癌では、術前・術後の放射線治療に加えて関連他科と連携して化学療法との併用も積極的に行っており、集学的治療の重要な一翼を担っています。そのため、腫瘍全般の治療適応の理解はもちろん集学的治療における放射線治療の役割および高精度放射線治療技術を研修するには最適な環境です。さらに日本で最初の病院設置型の陽子線治療があり、頭頸部癌、肝臓癌、肺癌、前立腺癌になどを中心に陽子線治療を行っているため、X線による放射線治療と陽子線治療の両者の適応や併用などによる治療選択の研修が同時にできる全国でも数少ない施設です。

放射線治療科 がん専門修練医コース（2年）

対象者：採用時に医師免許取得後5年目以降が対象（上限はなし）応募条件の詳細は募集要項参照。

研修内容

関連各科のローテーションは3年コースと同様に自由選択。2年の研修期間の1年以上の期間は放射線治療科にて研修することが望ましいが、研修目標などによって応相談。

研修の特色

レジデント修了者に相当する経験と知識を有する5年以上の臨床経験を有する医師を対象とした研修年限2年のコースで、将来、放射線腫瘍学分野の指導的立場になり得る人材

の育成を目的としています。指導医のもとで放射線腫瘍学の臨床ならびに高精度放射線治療の知識・技術の習得に努め、2年目には基礎および臨床研究または臨床試験を通じた治療開発の基礎を研修することが可能です。先端医療開発センターと連携して放射線生物および放射線腫瘍学に関連したトランスレーショナルリサーチも実施しているため、研究の基本的な手技習得から研究実施、成果の論文化などの指導も行っています。

レジデント 短期コース(3ヶ月単位で2年間未満まで延長可能な研修コース)

対象者: 採用時に医師免許取得後3年目以降が対象(上限はなし)

研修内容

1年未満の研修期間の場合には、放射線治療科にて研修する。2年未満の研修期間の場合には、希望に応じて関連各科のローテーションは自由選択可能。研修内容は希望に応じて相談に応じます。

専攻医コース

対象者: 基本領域専門医取得のため研修中の専攻医を対象としたコースです。

研修内容

短期間の研修で、基本的ながんの診療経験を積むことを目標としています。

任意研修

対象者: がん研究センターの研修機会を生かしたい方

期間・研修方法: 1週間～。放射線治療科研修(他科ローテーションも相談可)

☞ 研修に関するお問い合わせ先

東病院レジデントプログラム HP

<https://www.ncc.go.jp/jp/ncce/resident/index.html>

Facebook 東病院 教育・研修情報

<https://ja-jp.facebook.com/ncceasteducation/>

国立がん研究センター 東病院

放射線治療科

科長: 秋元 哲夫 医長: 中村 直樹

メールアドレス:

taki moto@east.ncc.go.jp

メールアドレス:

naoknaka@east.ncc.go.jp